

学力調査等の状況

■全国平均と比べると、平均正答率は国語(-1.1%)、数学(-1.5%)とやや低い結果であった。生徒質問調査の結果については、1日あたり4時間以上ゲームをする生徒の割合が全国平均(16.6%)に対して23.5%、1日あたり4時間以上スマートフォン等でSNSや動画を視聴する生徒の割合が全国平均(18.2%)に対して25.3%と、多いことが分かった。
 ■問題別の結果から、「読み取る・説明する」力を見る出題について低い傾向が見られた。

見えてきた課題

■生徒質問調査の結果、PCやタブレット等のICT機器を用いて家庭学習を行う割合が全国平均よりも高い。一方で、ゲームやSNS、動画視聴に時間を費やす生徒の割合も高いことが分かった。授業でのICT機器の活用や、学び合う活動を中心に、家庭学習(授業の予習・復習)に計画的に取り組む意欲を高めることができるように、授業内容(特に基礎・基本)の定着を図る授業改善(下記内容)に取り組んでいく。

授業をデザインする8つの取組について

ICT機器の活用	①プロジェクターやスクリーンを活用し、資料や授業のまとめを視覚的に確認させる。 ②Qubenaを活用した自主学習への取り組み推進等、授業力の向上に努めている。
見通しをもたせる導入	黒板への掲示及び学習カード等を活用し、授業のめあて・流れを明示して、生徒自身が1時間の中で何を学ぶかを理解したうえで授業に取り組めるように努めている。
認め合う・学び合う集団の形成	人権尊重教育推進校として、日頃からお互いの人権に配慮した言葉遣いや関係づくりを意識している。安定した関係性の中で、話し合いや学び合いを行い、深い学びにつなげるように努めている。

各教科における課題を改善するための指導の重点

	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
国語科	<ul style="list-style-type: none"> ICT教材や視覚資料を活用し、視覚的にわかりやすい導入を行う。 対話的な活動を取り入れ、考えを深める機会を設定する。 発表活動などを通して、表現力を高める活動を取り入れる。 語彙力を養うため、定期的に漢字テストを行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の活用により、視覚的にわかりやすい導入や授業展開を引き続き行う。 聞く力を育成し、自分の意見を相手に伝える力を伸ばせるような授業展開を図る。 思考し表現する力を高めていけるような活動を展開する。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、視覚的にわかりやすい導入を行うことを引き続き行う。 対話的な活動を行う際は、役割や手立てを具体的に設定し、誰もが参加できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、視覚的にわかりやすい導入を行うことを継続していく。 対話的な活動の際、目的やゴールをより具体的に、明確にする。 発表の際には単元ごとに何を重視するか明確にする。
社会科	<ul style="list-style-type: none"> ICT教材や視覚資料を活用し、視覚的にわかりやすい導入を行う。 学習形態を工夫し、対話的な活動を取り入れる。 発表活動などを通して、表現力を高める活動を取り入れる。 資料を厳選し、資料を読み取る力や活用する力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、導入をはじめ、動画や資料などの提示をICT機器を活用して行う。 調べ学習の成果をICT機器を活用して発表し、表現力を高めていくとともに、学びの成果を共有していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 毎授業ICT機器を活用し、視覚的にわかりやすい授業を引き続き行う。 ペアワークで効果的に意見交換することができる発問を引き続き行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、視覚的に分かりやすい導入を行うことを引き続き行う。 学習形態の工夫として、ジグソー法などのアクティブラーニングを引き続き行う。
数学科	<ul style="list-style-type: none"> ICT教材や視覚資料を活用し視覚的にわかりやすい導入を行う。 統計や確率などの単元では、クイズブックのスプレッドシートを活用し実験の集計を円滑に行う。 習熟度別少人数授業(2、3年)を行い、生徒の発達の段階に合わせた指導を行う。 基礎、基本の計算力を身につけるために、問題演習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、視覚的にわかりやすい授業を引き続きおこなう。 計算力を身につけるため、ペアワークやクラス全体で暗算プリントやフラッシュ計算をおこなっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 一次関数の動点の問題や、図形の問題では、スクリーンを用いて図を掲示し、授業者と一緒に図に書き込みながら指導を行う。 授業の初めの前時までの振り返りを、生徒と確認しながら、継続して確認していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 図形の指導において、スクリーンにプリントと同じ図を提示し、情報の共有を行うようにする。 基礎、基本の計算力を身につけるために、週末課題の実施や、単元ごとに小テストを行う。
理科	<ul style="list-style-type: none"> ICT教材や映像資料の積極的活用 問題の反復練習、再テストの実施の基礎・基本の定着 実験、観察の充実と、科学的思考力の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ICT教材や映像資料などを活用し、観察・実験の操作の確認した。 キュビナを活用し、問題演習や小テストを実施した。 観察・実験を行う際に、事象について考える時間を設け、科学的思考力の育成を図った。 	<ul style="list-style-type: none"> 映像資料、ICT教材を活用する授業を行う。 授業の終わりに基本的な問題演習を行い、基礎・基本の定着につなげる。 実験を行う際は、考察に時間をかけ、科学的思考力の育成を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 電子教科書などを活用し、主体的に取り組む態度の向上につなげる。 ICT機器を用いて、観察・実験の方法・結果などを視覚的にわかるように用いている。 定期的に問題演習を行い、学び合いを活用して基礎・基本の定着につなげる。
外国語科	<ul style="list-style-type: none"> ICT教材を使用し、視覚的にわかりやすい導入を行う。 クイズブックを使用した問題演習を行う。 少人数制授業を活かし、個に応じたきめ細やかな指導を行う。 ペア・グループワーク等で学び合い活動を活性化させ、対話的な学びをはかる。 発表とやりとりの機会を可能な限り設ける。 得点力をつけさせる問題演習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> プレゼンテーションソフトを用いて、新出語句や本文、文法の導入を行い、生徒の動機付けを行う。 少人数授業を実施し、きめ細やかな指導を継続する。 アクティビティを含め、話し合い活動を取り入れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT教材を活用し、生徒にとってわかりやすい授業を行う。 キュビナを活用し、基礎・基本の定着につなげる。 生徒の実態に合わせた指導をし、ペア・グループワークで生徒が英語を話す場を積極的に設けていく。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書のアニメーションを利用し、英文のイメージを持たせて学習に取り組ませる。 ペアでクイズ形式で単語学習をさせることで受け身の授業にならないようにする。 受験も意識したスピーキングへの取り組みを実施。

①-2授業改善推進プラン(中間改善計画)

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
音楽科	<ul style="list-style-type: none"> 発声練習を繰り返し行い、良い発声を身に付けさせるとともに、歌う楽しさを感じさせる。 人前で発表することを通して、自分の思いを表現する音楽的な能力を身に付けさせる。 パート練習等を通してリーダーを育成する。 映像資料を積極的に活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な発声練習や常時活動を取り入れ、正しい発声方法、や音程感・リズム感を身に着ける。 声を出しやすい雰囲気づくりと教室環境整備を行う。 話し合い等対話的な活動を取り入れ、考えを共有し深める。 本時の流れと目標を明確にし、見通しを持った授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な発声練習や常時活動を取り入れ、正しい発声方法、や音程感・リズム感を身に着ける。 声を出しやすい雰囲気づくりと教室環境整備を行う。 話し合い等対話的な活動を取り入れ、考えを共有し深める。 本時の流れと目標を明確にし、見通しを持った授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 多様な発声練習や常時活動を取り入れ、正しい発声方法、や音程感・リズム感を身に着ける。 話し合い等対話的な活動を取り入れ、考えを共有する。 本時の流れと目標を明確にし、見通しを持った授業を行う。 映像資料を活用し多様な音楽に触れる。
美術科	<ul style="list-style-type: none"> 思考力をつけるために、導入ではワークシートを用いてアイデアを整理する時間を確保する。 表現力をつけるために、1学年のうちに基礎的な技術指導(レタリング・スバッティング・トレース・遠近法など)を行う。2・3学年では判断力を付けるために、習得した技術から自ら選択し、活用して表現を行う作品制作を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考力をつけるために、導入ではワークシートを用いてアイデアを整理する時間を確保することを引き続き行う。 基本的な技法(レタリング・スバッティング等)の指導を引き続き行う。 板書・スライドにて、本時の目標、授業の流れを明確にした授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考力をつけるために、導入ではワークシートを用いてアイデアを整理する時間を確保することを引き続き行う。 1年次で習得した技法を活用するよう引き続き指導する。 板書にて、本時の目標、授業の流れを明確にした授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 思考力をつけるために、導入ではワークシートを用いてアイデアを整理する時間を確保することを引き続き行う。 1、2年次で習得した技法を活用するよう引き続き指導する。 板書・スライドにて、本時の目標、授業の流れを明確にした授業を行う。
保健体育科	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、正しい運動の仕方や自分の動きを確認し、技能の習得につなげる。 学習カードに授業の流れを明記することで、授業のめあてと共に取り組みの見通しをもたせる。 単元小テストを取り入れ、技能向上に必要な「知識」を深めさせ、グループワーク等の対話に生かす。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、生徒自身が技能を即時に振り返ることで、授業の中で課題解決に向けて取り組むことができる。 毎時間の目標を明確にすることで、技能の声掛けを一貫して行う 学習カードに技能やルールを明記し、繰り返し使用することで授業内での知識定着を図る 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、自分自身の技能の成果や課題を振り返ることで、学習意欲を高める。 授業の目当てと振り返りを一貫して行い、見通しを持たせるとともに目的意識をもって授業に取り組ませる。 学習カードに授業のなごれや技能のポイントを明記することで、授業内での知識・技能の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、生徒自身で技能の習熟度やチームの課題に気付かせる取り組みを続けて実施していく。 見通しをもたせ、毎授業の目標を明確にした授業を行う。 単元テストにより、知識を深めた上で、生徒の学び合い・教え合い活動を引き続き行う。
技術・家庭科	<ul style="list-style-type: none"> できあがった作品を見せることで、スムーズに作らせる。 自分で考えさせるやり方も試す。 ICT機器等で実際の作業を見せる。 早くできあがった生徒とペアを組ませることで効率よく授業を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、視覚的に作業の様子を確認することを引き続き行う。 板書にて、本時のめあて、授業の流れ、まとめ、作業目標を明確にした授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、視覚的に作業の様子を確認することを引き続き行う。 板書にて、本時のめあて、授業の流れ、まとめ、作業目標を明確にした授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器を活用し、視覚的に作業の様子を確認することを引き続き行う。 板書にて、本時のめあて、授業の流れ、まとめ、作業目標を明確にした授業を行う。
総合的な学習の時間	<ul style="list-style-type: none"> 体験的な活動を重視し、その中で問題解決的な学習が経験できるように意図する。 パソコンを道具として使いこなし、情報収集をできるようにする。 様々な人との直接的なかわわりを大切にする。 関係施設や民間企業、保護者など、地域の教育力を最大限活用する。 	<ul style="list-style-type: none"> 移動教室の事前、事後学習において、ICT機器を利用し、必要な情報を収集してまとめるができるようにする。 職業調べにおいて、学校において働くことについて講話を実施する活動を取り入れていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習の事前・事後活動において、ICT機器を利用し、必要な情報やユニバーサルデザインについてまとめ、発表できるようにする。 職場体験を行うに当たり、外部講師によるマナー講座を行う。 職場体験において、働く人との直接的な関わりをとっておく意義について考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業のめあて・流れをスライドで視覚的に示すことにより、生徒が見通しをもって作業に取り組めるようにする。 ICT機器での生徒の調べ学習を充実させるために、適切なサイトを事前に調べて提供する。 生徒同士の意見共有のために、スプレッドシート等の共有物に意見を書き込ませる。
特別の教科 道徳	<ul style="list-style-type: none"> 思いやりの心を育成し、人権尊重の精神を尊重する態度を育成する。 学校のきまりや、生徒の身近な問題を通して、規範意識を養い、道徳的心情判断力を育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 思いやりや人権尊重の態度を育成するため、ペアワークやグループワークによる意見の共有をおこなっている。 規範意識、道徳的心情判断力をはぐくむため、ICT機器を活用し、視覚的に情報を共有したり、事象を想像したりできるよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 思いやりや人権尊重の態度を育成するため、グループワークによる意見の共有をおこなっている。 規範意識、道徳的心情判断力をはぐくむため、ICT機器を活用し、視覚的に情報を共有したり、事象を想像したりできるよう努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> 思いやりや人権尊重の態度を育成するため、グループやクラス全体で意見の共有をおこなっている。 規範意識、道徳的心情判断力をはぐくむため、ICT機器を活用し、視覚的に情報を共有したり、事象を想像したりできるよう努めている。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	第1学年	第2学年	第3学年
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 愛情と信頼を軸として、心の交流のある望ましい集団生活の育成に努める。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動や学校行事を通して、望ましい人間関係を形成できるようにする。 また、生徒一人一人の自己肯定感や自己有用感を味あわせる場面をつくり、自他共に大切にできるような雰囲気をつくっていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動や学校行事を通して、今後も生徒の自己肯定感を醸成していく。 第1回hyper-QU調査の結果を分析し、生徒とのリレーションの向上を意識して指導を行う。 また、第2回hyper-QU調査の結果をもとに、これまでの指導を振り返る機会をつくり、望ましい集団の育成につなげる。 	<ul style="list-style-type: none"> 学級活動や学校行事を通して、学級への所属感や自己肯定感を深める場面を大切にしていける。 また、卒業に向けて、これまでの経験を振り返る場面を作ること、生徒一人一人が自信をもって学校生活を送り、進路選択ができるようにしていく。